

すずかんの

医療改革の「今」を知る

医療再建は皆さんの一票から。マニフェストご覧を

第47回

八

方塞がりの医療に、ようやく明るいうやうな光が差しそうです。4年ぶりに総選挙が行われることになったからです。選挙で民意さえ示されれば、国の予算の使い方を大きく変えて医療へ回すことが可能になります。

夏休み最後の日曜日なので予定がある方も多々と思いますが、医療の今後に不安を覚えているなら必ず投票してください。この機会を逃すと、また4年待たなければならぬかもしれません。医療がさらに崩壊してしまつたら、悔やんでも悔やみきれません。

民主党は、「公共事業や天下一団への補助金などのムダを削って、約2兆円、医療予算を増額する」旨、マニフェストで約束しています。おそらく与党も医療を守るとマ

ニフェストに書き込むでしょう。皆様には、医療がこの4年間でどれだけ疲弊してきたかを思い出していただければ、よく吟味していただければと思います。

民主党の政策の中で、医療に回す2兆円のうち特に実効性が大きいだろうと思われるのは、地域医療を守るため、医療人材の維持・拡充に努める病院について、その入院に係る診療報酬を段階的に約2割まで引き上げるというもの。約5千億円必要と計算しています。

それにより増えた収入を現場の医療チーム充実のためにどう使うかは、各病院の裁量。それぞれの病院が、今までに必要なのに雇えなかった人材を確保できるようになり、医療の質が間違いなく向上すると思います。大病院も息を吹き返すでしょう。売却されることになっている厚生年金病院、社会保険病院の公的存続のため、地域医療推進機構法

(仮称)も制定します。公立病院や日赤病院なども維持します。

さらに、後期高齢者医療制度の廃止と保険一元化を実現し、皆さんの不安の大きい出産に関しては一時金の支給額を現在の42万円から55万円に引き上げて医療機関が赤字をかぶらなくても済むようにするほか、医師養成数5割増、救急搬送・医療の連携強化など、目玉項目が目白押しです。この紙幅では全部を説明できません。ぜひともサイトを<http://www.dpj.or.jp/>をご覧ください。

医療現場危機打開・再建国会議員連盟幹事長、中央大学公共政策研究科客員教授、参議院議員
鈴木 寛



すずき・かん ●通称すずかん。1964年生まれ。慶應義塾大学SFC環境情報学部助教などを経て、現職。教育や医療など社会サービスに関する公共政策の構築がライフワーク。